

I 「私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました」：7。

この御言葉を本気で信じると嬉しくなる。

他の人と比較して、ねたんだり、高ぶったりする必要はない。

素晴らしいキリストが、私達ひとりひとりに、相應しく、ちょうど良い賜物、能力を量り、与えて下さったのである。そこには間違いがない。

私達一人一人に相應しい量の賜物が与えられている！

感謝したい。祈りたい。「私に、あなたが、量って与えられた賜物は何ですか」と。

神は、私達が、色々とやって行く中で、徐々に教えて下さる。

エペソ4章の全体のテーマが、教会の一致である事を心に留めたい。画一の一致ではなく、多様性の中の一致。違いが一致を壊すのではなく、違った賜物が与えられているゆえに、互いに尊敬し合い、協力して一致を保って行く。

II 賜物（神の栄光の為に用いる主から量り与えられる能力）について教えている聖書の箇所から学びたい。ローマ12：1－8。

① 賜物による奉仕の前に大切な事＝：1。

神のあふれる恵みに心から感謝して自分自身を神に奉げる事。神に自分を奉げる人は、自分の栄光ではなく、神の栄光を現わす事を喜ぶ。

②：1。賜物による奉仕の前に大切な事は、心から神を礼拝する事。神は心のこもった礼拝を最も喜ばれる。

③：2。世の罪と調子を合わせたままの奉仕は喜ばれない。

自分の罪を悔い改めての奉仕が祝福される。神の御心を第一にし、祈り求める。

「私が何をすることを神は喜ばれますか」と祈り尋ねる。

「心（思い、考え方）の一新によって自分を変えなさい（変えられ続けなさい）」：2。

聖霊なる神に自分の思い、物事に対する考え方、捉え方を変えていただき、

主の御姿に成長し続けながら、賜物による奉仕をさせていただく。霊的に成長し続ける時、

奉仕も霊的に成長し続ける。マンネリ化から守られる。

④「だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません」：3。

神は、思い上がらない、謙遜な人を奉仕に用いられる。謙遜な人は、自分は、自分の罪の為に

滅んで当然だったのに、今は、神に救われ、愛され、生かされている神の恵みをいつも感謝

しながら奉仕をしている。霊的スランプに落ち込む時、神の恵みを深く覚えたい。

⑤「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだ（とされた教会）であり、ひとりひとり互いに器官（互いに互いを必要とする存在）なのです」：4、5。

⑥→①から⑤の大切な真理が語られて初めて、奉仕の事が語られる。

御言葉は、順序にも意味、メッセージがある。

「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが

預言（神の御言葉を預かり人々に語る。現在の説教は、その一つ）であれば、その信仰（主との生ける繋がり）に応じて預言しなさい。奉仕であれば奉仕し（奉仕には数えきれない多くの奉仕がある。目に見える奉仕、見えない奉仕で、各教会は成り立っている。人数により、奉仕の内容も、キリストにより変えられて行く）。

勧めをする（原語：側へ呼ぶ、呼び寄せる、招く、勧める、訓戒する、元気づける、慰める、励ます、好意をもって話しかける、優しい言葉をかける）人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい」：5-8。

Ⅲ「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師、また教師として、お立てになったのです」エペソ4：11。

現在も、キリストご自身が、ある人を伝道者、宣教師、牧師、また教師としてお立てになる。人々が救われ、そこで終わりではなく、一人一人が、神の教会に加えられ、キリストの体（教会）に霊的につながり、神の教会が建て上げられる為に、神は神のみこころにより、人々を召され、キリストご自身が、その人々を教会にお立てになる。色々な導きを通して。

神の働き人として神に用いられたパウロは、こう言っている。

「外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまづいていて、私の心が激しく痛まないでおられませんか」Ⅱコリント11：28, 29。

「私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください」ローマ15：30。

「私のためにも祈ってください」エペソ6：19。

「私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください」コロサイ4：3。

キリストの福音を語り、神の教会を建て上げる働きは、簡単な事ではなく、あのパウロでさえ、そして私も、心が激しく痛むものであり、教会の皆さんの祈りの支え失くしてできるものではない。悪魔は、特に、主の働き人に、強い誘惑のわなを仕掛けてくる。この2千年間、多くの働き人が、悪魔の誘惑に負け、働きから退きました。私は大丈夫と思った時点で危ないのです。

弱い私は、皆さんの祈りの支えで、毎週、御言葉からの説教が出来、ここまで支えられて来ました。これからも祈り支えて下さい！

Ⅳ 励まし。

1. 神は、私達が、神の恵みに感謝し、喜んで奉仕する姿を、ちゃんと見ておられ、喜んでおられる。世の終わりに、主が再臨される時、私達に、こう語られる。

「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ」マタイ25：21。

2. 神は、私達が、神に感謝し、神を愛し、人に仕えた愛を覚えていて下さる。

「神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです」ヘブル6：10。世の終わりに再臨される主は言われる。

「あなたがたが、これらの私の兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」マタイ25：40。